

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教務部	1 効果的行事の実施と授業時数の確保 (教育計画)	(1) 各部署と連携し、行事運営を分担し、準備、実施する。 (2) 考査と考査の間の授業時数を意識し、適切な日時を提案する。 (3) 令和9年度新教育課程に向けた準備をする。		
	2 計画的な生徒アンケートの実施 (実態調査)	(1) 生活調査と学習調査を複数回行う。教務部全体で集計する。 (2) 生活調査と学習調査の結果を該当学年に共有し、指導に活かす。 (3) 通学方法調査を行い正確な実態を把握し、学校基本調査・学校要覧に反映する。		
	3 ルーティン業務の輪番化 (記録・時間割・別室・欠課)	(1) 教務日誌、時間割振替業務、別室利用記録を輪番化する。 (2) 日々の生徒の状況ならびに学校運営状況の把握に努める。		
	4 バス・奨学金業務の確実な遂行 (バス・奨学金)	(1) 生徒サービスの一環と位置付け、分かりやすい説明を行う。路線バスの変更に際し正確な情報を早く伝える。 (2) 両業務とも部員間での連携を密にし、漏れを防ぐ。		

評価項目	具体的目標	具体的方策			
教務部	5 テスト業務の円滑な実施 (時間割)	(1) テスト時間割と監督割、返却特編時間割を分担し、作成、告知する。 (2) テスト欠席者の追試を計画、実施をする。テスト未受験者を管理する。			
	6 教科書・教材・備品の管理 (教科書・備品)	(1) 次年度使用教科書の取りまとめを行う。また、副教材の再注文業務をシステム化し、支払いまでの流れを確立する。 (2) 消耗備品を把握し、管理する。			
	7 正確な数値と生徒異動の管理 (文書統計)	(1) 月別異動報告の把握と報告を正確に行う。複数の教員で行う。 (2) 定期考査後、成績個表を発行し、生徒が自ら振り返る機会とし、指導に活用する。 (3) 文書及びデジタル文書を整理し、活用できる環境を整える。不要な文書を決まりに沿って処分、整理する。			
	8 教務部員のスキルアップ (人材育成)	(1) 教務部会を通し、教務部業務の進捗状況を確認する。 (2) 仕事が自己成長の機会であると捉える意識をもって臨む。			

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
進路指導部	<p>1 コースの特色が強くなる進路企画を実施することで、生徒たちが安心してチャレンジできる環境を作り、進路実績のさらなる向上につなげる。</p>	<p>医療看護演習・放課後大学説明会・校外での合同説明会・大学専門学校バス見学会・卒業生講話などを実施することで、進路を考えることを身近なものにしていく。</p>		
	<p>2 進路指導部の教員は、進路行事を企画段階から準備・運営ができる集団とする。</p>	<p>部に所属している教員全員が、進路企画を考え、実施できる力を持つことで、進路指導に深く関わるようにする。</p>		
	<p>3 進路行事の実施に安心せず、参加している生徒たちの様子を外部に発信（広報）することで、本校の進路指導の取り組みを広く伝える。</p>	<p>いい企画を考えていても、広げなければ認知されない。本校生徒たちが楽しく真剣に取り組んでいる様子を、ホームページやSNSを使って広めていく。</p>		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
生徒支援部	1 交通ルールの遵守とマナーの向上	(1)外部専門家による交通安全講話の実施。 (2)自転車通学者への個別対応。 (3)他校と合同の巡回指導の実施。 (4)下校時の6号線付近での巡回。		
	2 規範意識と自己管理能力の向上	(1)個に応じた指導の実践。 (2)文書などを通じた保護者への協力依頼。 (3)生徒への積極的な声掛け。 (4)掲示物や配信による注意喚起。		
	3 問題となる行動の未然防止	(1)一日一回は校内巡回。 (2)各学年と連携した情報の収集と共有。 (3)教育相談との情報共有。		
	4 主体性の育成	(1)委員会活動の活性化。 (2)学校行事における生徒の役割の増加。 (3)支援部目標に沿った生徒の役割の創出。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
渉外部	<p>1 保護者の会の活動に対して、募集や広報活動において ICT を積極的に活用し、活動の活発化を図る。あわせて、各部署・各委員会・管理職と連携し、円滑な運営に努める。</p> <p>対外的な諸活動について、計画的かつ円滑に実施し、滞りなく遂行する。</p>	<p>(1)各部署や委員会と連携し、効果的に行事を運営できるようサポートする。</p> <p>(2)保護者が参加できる適切な日時・企画を提案する。</p> <p>(3)ゆとりのもてる行事予定を作成する。保護者の会総会を開催する。</p>		
	<p>2 生涯教育等を通して、地域に根ざした活動に積極的に協力する。</p>	<p>(1)かすみがうら市のイベントへの積極的な参加など、保護者と共に可能な企画運営を遂行する。</p>		
	<p>3 対外的な諸活動について、計画的かつ円滑に実施し、滞りなく遂行する。</p>	<p>(1) 式典のメッセージカードの発送、お礼状の発送等の準備を早めに滞りなく行う。</p>		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健環境部	1 基本的な生活習慣の確立を基礎とし、自己の健康に目を向け、健全な心身の発達を目指す。	(1) 委員会を活用した、心身ともに逞しい身体づくりを推進する。 (2) 遅刻カードにて生徒の心身状況の確認を行い教員間で共有する。 (3) AED講習、性教育講話等を実施し、生徒の事故防止に努め、また人格の完成、豊かな人間形成を目指す。		
	2 快適で安全な環境づくりに努める。	(1) 教室・職員室・グラウンドの環境整備をする。 (2) 環境美化意識の育成を図る。清掃活動や、清掃用具等の整備などを通じて、環境美化を図るとともに、物を大切に作る人間性を育む。 (3) 委員会を運用する。主体的に活動できる人材育成を目指す。		
	3 教育相談の充実。	(1) 保健環境部長、養護教諭、学年主任・副主任、担任との連携を強化し、生徒に関する情報を共有化することにより、素早くきめ細かい教育相談を行っていく。学年毎に教員を配置し連携を取れるシステムの構築。 (2) 『教育相談だより』を発行する。人格の成長への援助を図る。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
入試広報部	1 入学者 180 名	(1) 推薦・単願受験者の増加 (2) 学習塾への訪問強化 (3) 中学校との情報共有		
	2 受験者数 750 名	(1) 説明会の企画を工夫する (2) SNSを活用した情報発信 (3) ニュースレターの作成		
	3 入試システムの改革	(1) 受験科目の見直し (2) 入試業務の効率化及びスリム化		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第1学年	1 望ましい生活習慣の確立	(1) 定期的な面談を通じ、生活習慣の乱れや不安を早期に把握し、個々の状況に合わせた解決策を共に考え実施する。 (2) 家庭との連絡を、学校と家庭で足並みを揃えて生徒の健康な生活を支える。		
	2 自己を理解し、他者を尊重する態度の育成	(1) 道徳やソーシャルスキルトレーニングの時間を活用し、自分とは違う意見や価値観を持つ人たちの思いを想像し、尊重する。 (2) 行事や部活動を通じ、自分の良さを認めると同時に、仲間の良さも見つけ、互いに高め合う。		
	3 将来を見据え、主体的に挑戦する力の育成	(1) 課外授業や検定を積極的に活用し、自分で自分を高める学習習慣を定着させる。 (2) ボランティアや大学見学などの多様な活動を体験し、社会にある幅広い仕事や学びを知ることで、自分の未来の選択肢を自分から増やしていく。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第2学年	1 基本的な生活習慣の安定と継続	(1) 規律ある学校生活と、登校習慣を確立し、学校が生徒にとって信頼できる居場所となるようにする。 (2) 保護者との情報共有を綿密に行い、教育活動に対する理解と協力を得る。		
	2 円滑な対人関係と協働作業の実現	(1) 学校行事やボランティア活動を通じて集団の中の自分の役割を自覚させ、学校生活でフィードバックを図る。 (2) 定期的な個人面談に加え、生徒の様子に応じて随時面談を行い、小さな変化に対してアンテナを張る。		
	3 進路への理解を深め、実現へのプロセス策定・実行	(1) 探究学習を通じて生徒の興味関心を深め、進路希望の決定と関連づける。 (2) 進路実現に向け、2年次にすべきことを明確に指導し、早期に受験へ意識を向ける。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第3学年	1 生徒全員の進路を実現する。	(1) 生徒面談や保護者面談を実施し、進路について共通理解・相互理解を図る。 (2) 進路ガイダンスやオープンキャンパスに積極的な参加を促す。 (3) 面接練習や小論文・志望理由書等の指導の充実を図る。		
	2 基本的な生活習慣・学習習慣の確立を図る。	(1) 挨拶の指導を徹底する。 (2) 遅刻・欠席に対する指導を行う。 (3) 身だしなみの指導を行う。 (4) 受験に向けた学習活動の活性化を図る。		
	3 学校の活性化を図り、社会の中で生きる力を育成する	(1) 学校行事や課外活動に積極的に参加し、自ら考え協力して活動できる機会を作る。 (2) 進路決定後も、新しい環境に対応するための準備に取り組ませる。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語科	1 進路実現のための実力養成 ・語彙力 ・評論読解力・小説読解力 ・古文読解力・漢文読解力	(1) ロイロノートを活用し、特別進学・医療看護進学コースを対象に、入試対策として漢字・古語・語彙に関する小テストを実施する。 (2) 特別進学コースを対象に、入試対策問題を実施する。 (3) 古文漢文は、概要を理解できるための基礎的事項習得を徹底する。		
	2 社会生活を営むための基礎力養成 ・常用漢字を基本とする語彙力 ・一般教養としての国語基礎 ・表現力	(1) ロイロノートを活用し、進学コースを対象に授業内に常用漢字に関する小テストを実施する。 (2) 漢字検定や日本語検定の受検を奨励し、支援する。 (3) 作品創作や発表形式で「書く」・「話す」能力を養成する。		
	3 自ら学ぶ主体性の養成 ・チャレンジ精神 ・発言、発信する力 ・知的好奇心	(1) ICTを活用し、生徒全員の意見を取り入れる創意工夫をする。 (2) グループワーク、討論による話し合いを取り入れた授業形態の導入する。 (3) 新聞、動画等視聴覚教材を活用し、興味、関心を引き出す。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
地歴公民科	1 ICT を効果的に活用し、生徒が主体的に考え表現する授業づくりを行う	(1) ロイロノート等を活用した協働学習や探究的活動を取り入れ、生徒が自ら考え、説明し、発表する場面を増やすことで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。		
	2 多様な進路に対応した実践的な受験指導の充実を図る	(1) 時事問題や身近な社会的課題を教材として扱い、原因・背景・影響・解決策を多面的に考察させることで、小論文・面接・記述問題にも対応できる力を養う。		
	3 授業研究と振り返りを継続し、教員としての専門性と指導力を向上させる	(1) 大学入学共通テストおよび各大学の入試問題を分析し、資料読解・記述・論述などの力を伸ばす授業内容を計画的に取り入れる。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
数学科	1 基礎学力の定着	(1) 習熟度別授業や個に応じた指導を行う。教科書の基礎的な部分の理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。必要に応じて、放課後や昼休みなどを活用して個別指導を行う。		
	2 継続的な学習習慣の育成	(1) 授業ノートや演習ノートの点検を適宜行う。また、定期的に宿題を課し家庭学習の習慣化を図るとともに、小テストを実施し、学習への意欲を喚起させる。		
	3 進路目標に応じた受験指導	(1) 進路目標別に授業を実施し、大学入試、専門学校入試、公務員試験、就職試験など、それぞれに対応する演習を行う。 (2) 演習授業や放課後の個別指導などを利用して、生徒の進路目標に応じた数学の学力を育成する。		

令和 8 年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
理科	1 学習意欲を高める。	(1) 導入で効果的な問いを設定し、主体的に考える授業を展開することで、知的好奇心や探究心を高める。 (2) 教科書・傍用問題集を中心に、予習復習のサイクルが定着するよう課題提示を工夫する。 (3) 動画や ICT 教材を活用し、視覚的に理解しやすい授業を展開する。 (4) 授業ごとに振り返りを行い、生徒の関心の変化を把握する。		
	2 思考力・表現力を高める。	(1) ロイロノート等を活用し、全員が意見を表出できる場を設定する。 (2) 実験や観察を通してレポートを作成させ、記述力を育成する。 (3) 他者の意見を踏まえ考えを再構築し、分かりやすく伝える活動を行い、能動的な態度を評価する。 (4) 発表や記述内容などをもとに、学習過程を評価する。		

	<p>3 知識・理解の定着を図る。</p>	<p>(1) 定期考査に加え、小テストを定期的 的に実施し、基礎基本の定着を継続 的に把握する。</p> <p>(2) 小テスト結果をもとに解説を行 い、理解の定着を図る。</p> <p>(3) 誤答分析を行い、つまづきやすい 点を明確にして授業改善につなげ る。</p> <p>(4) 教科書傍用問題集やスタディサプ リ等を活用し、反復学習の機会を 確保する。</p>			
	<p>4 進路希望に応じた指導をする。</p>	<p>(1) 課外授業を実施し、受験に向けた 基礎から応用まで段階的に指導す る。</p> <p>(2) 推薦・総合型入試対策として、探 究活動やレポート制作を取り入れ た課外を実施する。</p> <p>(3) 志望理由書や面接を意識した指導 を行い、表現力・論理構成力を高 める。</p> <p>(4) 進路希望や学力に応じた個別指導 を行い、学習計画を支援する。</p>			

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健体育科	1 興味・関心を引き出せる指導の工夫	(1)生徒の実態に応じた簡易ゲームなどを取り入れ、生徒の競技への関心を高める。 (2) 毎授業後に自己評価をロイロノートに記入させ、振り返りを行うことにより、理解を深めさせる。		
	2 実技テスト・筆記テストの導入	(1)授業に合わせた実技テストを導入する。 (2)能力に応じてテストの内容を工夫する。 (3)実態に応じて筆記テストを実施する。		
	3 保健の授業に於いて生徒を積極的に授業に参加させる工夫	(1)グループ学習や、発問を工夫して、多くの生徒が参加できる授業を行う。 (2)タブレットを積極的に活用させる。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
英語科	1 基礎学力の定着を重視した学習活動の展開と、資格試験や英語活動への挑戦の促進	(1) 生徒の状況に応じた授業を行い基礎文法を固めるとともに英検受験を促す環境整備と情報提供を充実させる。 (2) 特別進学クラスでは共通テストを見据えたリスニング・速読を、進学クラスでは主体的な活動を強化するとともに、英語活動への参加を促し実践の機会を広げる。 (3) 映像授業宿題や課題を活用し、生徒の家庭学習習慣の確立と知識の定着を図る。		
	2 ICT（情報技術）を用いた授業の展開	(1) ICT（情報技術）利用が目的とならない利用方法を教科内で共有する。 (2) 他教科における ICT（情報技術）の利用方法を参考とし、英語科における活用方法を検討する。		
	3 学び続ける教員 ・民間の英語4技能検定の受験 ・問題研究 ・授業研究の実施	(1) 英検、TOEIC など、民間英語4技能検定を受験または過去問を解き、自分なりの教え方を確立する。 (2) 共通テスト筆記100点・リスニング100点を全教員が目指す。 (3) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業案を共有及び追試を行い、授業改善に努める。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情報科	1 パソコン室のシステムの管理と安定的な運用	主に, google アカウントの管理・作成, パソコンやプリンタの保守管理。		
	2 基本的な技術の習得と, プログラミング教育	タブレットではなく, パソコンを使うことを中心にする。また, プログラミングについての指導を増やし, Python 検定など外部の検定試験受験者増を目指す。		
	3 情報モラルの向上	SNS に関するトラブル指導, 著作権など法律に関わる指導は高校卒業後にも関わっていくため, 2年3年どちらでも繰り返して指導する。		

令和8年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
芸術科 (音楽 I・ 美術 I・ 書道 I)	1 生徒一人ひとりの個性に応じた感性を引き出し、伸長する。	(1) 芸術的表現力(演奏・表現・書写)や技術の向上を図る。 (2) 作品鑑賞を通して、評価基準を定め、自己や他者の価値意識を育てる。 (3) 著作権の損害に注意しつつ、ICT機器を積極的・効果的に活用し、「楽しく・わかりやすい授業」を実践する。 (4) 個々に懇切丁寧な指導・きめ細やかな指導をする際に、指導者の経験値や考えを強調しすぎないように配慮する。		
	2 我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。	(1) 古典芸術の作品に触れる機会を多くする。 (2) 伝統芸能(邦楽・雅楽、工芸、書道)の技法や歴史を理解する。 (3) 日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り、ICT機器に保存した自己作品など利用しつつ、生徒自身が情報発信できるようにする。		